

講義科目名称： 老年高度実践看護学実習Ⅱ

授業コード： 6930700900

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Gerontological NursingⅡ

| | | | |
|-----------------|-----|-----|--------------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 4単位 | 選択 老人看護CNS必修 |
| 担当教員 | | | |
| ◎原等子、小長谷百絵、東條紀子 | | | |
| | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | | | | | | |
|------|---------------------------------|------------------------------|----------------------------|---|--------------|--------------|
| 授業種類 | 【開講】 前期 | 【授業時間】 180時間 | | | | |
| | 【担当教員】 | | | | | |
| | 【氏名】 ◎小長谷百絵 原 等子 東條 紀子 | 【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 | 【研究室】 213 303 308 | 【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp | | |
| | 【本学の科目区分】 専門分野 | | | | | |
| | | | | | | |
| | 【D P 1】 ○ | 【D P 2】 ◎ | 【D P 3】 ◎ | 【D P 4】 ◎ | 【D P 5】 ◎ | 【D P 6】 ○ |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | 1. 認知症高齢者の複雑で対応の難しい問題や生活上の課題に対して解決や状態改善をはかるために、認知症ケアに関する諸理論を適用することができる。 2. 個性性を重視した包括的なアセスメントに基づく看護を展開する能力を習得することができる。 3. 臨床指導者（看護師長、施設管理者）とともに、組織的なケア活動、スタッフ教育、相談、調整、研究指導を実施することができる。 4. 専門看護師としての能力について述べるができる。 |
|------|--|

| | |
|------|---|
| 授業概要 | 認知症高齢者が医療施設（外来）受診に到った経緯、外来における診断検査・治療および医療施設や介護老人保健施設、認知症高齢者対応共同生活介護（グループホーム）に入院・入所して治療・ケアを受ける認知症高齢者の背景を理解し、老人看護 CNS に求められる役割を修得できるよう実習する。指導教員ならびに老人看護 CNS もしくは認知症認定看護師もしくは認知症高齢者看護に経験豊富な看護師長及び施設管理者の指導のもとに実習を行う。 なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例と退院計画 1 例）また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポート各 1 部を作成する。 |
|------|---|

| | | |
|------|---|---|
| 授業計画 | 1 | 授業内容 授業形態：実習 学修課題：高度看護実践 学修内容：認知症高齢者に対して、身体・精神・社会面から包括的アセスメントを行い、家族を始めとするサポートシステム、ケアに関わる多職種とのチームアプローチ・連携を考慮したケアプランを立案し、問題解決のための看護実践、評価ができるよう実習する。 備考： |
| | 2 | 授業内容 授業形態：実習 学修課題：倫理 学修内容：倫理的判断が必要とされる看護場面で関係者間の倫理的調整と意思決定の支援ができるよう実習する。 備考： |
| | 3 | 授業内容 授業形態：実習 学修課題：調整 学修内容：対象者に必要なケアが効果的に提供されるために、高齢者ケアに携わる家族、保健医療福祉職間の調整の在り方について実習する。 備考： |
| | 4 | 授業内容 授業形態：実習 学修課題：相談対応 学修内容：看護職を含むケア提供者（コンサルテイ）から相談を受け、コンサルテーションの知識・技術を活用して相談に対応する実践から評価まで実習する。 備考： |
| | 5 | 授業内容 授業形態：実習 学修課題：スタッフ教育 学修内容：実習施設の役割・機能を考慮し、ケアチームにおける看護専門職として、スタッフのケア実践に関する助言を行う。また、ケアの質向上につながるスタッフ教育・研修計画を企画、実施、評価を実習する。 備考： |

| | |
|-----------------|--|
| 事前・事後学習 | 事前学修：講義内容を振り返り各自の看護実践上の課題や関心を持ち実習に臨む 事後学修：看護実践上の課題に応じて新たな文献を精読する。 |
| 評価方法、評価基準 | 到達目標1～4に対して実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%により評価する。 |
| テキスト | 最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する |
| 参考図書・資料等 | 実習の中で随時紹介する。 |
| 受講、課題、資料配布等のルール | <ul style="list-style-type: none"> ・本学の実習要項を事前に配布し、説明する。実習の目的・目標を十分理解すること、また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては、ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。 ・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画書（課題、受持つ対象像、日程と具体的活動など）を事前に作成し、教員・臨地指導者と調整すること。 |
| 教員からのメッセージ | ・CNS として求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに、CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り、看護職のモデル的役割を発揮してほしいと思います。また、実習Ⅱの目的・目標を十分理解し、その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと、調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。 |
| オフィスアワー | 随時（メール調整） |